

大学名：静岡大学教育学部

ASPUnivNet の 4つの機能他	評価項目	事例記述
1. 学校のユネスコスクール加盟を支援します (加盟に関する相談も含む)	① ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡市こども園課主催「ユネスコスクールの遊びと生活展」についての事前準備に関する相談に応じた。 ・開成館中学校・高等学校主催「気候変動から未来を守るシンポジウム 2023」のパネリストとして参加した。
	② ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	(チャレンジ期間実施行からの相談がなかった。)
	③ 地域の加盟済のユネスコスクールに向けて ESD/SDGs をリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ユネスコスクールの遊びと生活展」を契機に、広くユネスコスクールの教育を広報した。また、その前後で、ユネスコスクールの教員が自主的に ESD に関する勉強会を企画し、大学教員が講師として参加した。
2. 大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します	① 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援(資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど)を行うことができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・大学と日本平動物園との連携で制作した SDGs デジタル絵本等のコンテンツを提供している。
	② 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ユネスコスクールの遊びと生活展」を契機に、広くユネスコスクールの教育を広報した。また、その前後で、ユネスコスクールの教員が自主的に ESD に関する勉強会を企画し、大学教員が講師として参加した。(再掲)
	③ 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年1月20日に北九州市で開催された「ESD フォーラムミュージアムジャック」(静岡大学主催)について、静岡市こども園課とユネスコスクールが積極的に広報活動を行なった。
3. 地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します	① 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	(今後、ESD・国際化ふじのくにコンソーシアムのステークホルダーへ周知していく予定である。)
	② ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で制作した『日本平動物園と教室をつなぐ ティーチーズガイド』などのコンテンツを活用し、地域の多様なステークホルダーとユネスコスクールを結びつけた。

	③ ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。	・教育委員会や担当課との関係は良好で、常葉大学、浜松学院大学の教員との連携を促進することができた。
4. 国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します	① 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた	(ユネスコスクールだけでなく、優れた ESD の実践を多様なステークホルダーに発信している。)
	② 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。	(ネットワークが必要なところは、すでに各校で行なっている。)
	③ ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。(例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など)	(海外との交流についての支援を求められなかった。)
5. 大学内の活動	① 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	・授業(教職大学院：幼児教育課程と ESD、学部：保育内容総論、幼児と環境、幼小の接続カリキュラムⅡなど)でユネスコスクールの存在や意義、実践を知らせている。
	② 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。	・学部(保育内容総論など)では、「ユネスコスクールの遊びと生活展」に参加し、展示物の説明だけでなく、来場し遊んでいる子どもの姿を見て学ぶ機会を設けている。
	③ 調査研究活動でユネスコスクールに関連した調査研究を行うことができた。	(昨年度は行われなかった。)
	④ その他	
6. ASPUnivNet のネットワーク機能の活用	① 加盟大学間で情報共有ができた。	・本学主催の事業にて、広島大学教育学部教員を評価委員として招聘するなど、情報共有の機会を創出している。

	② 加盟大学間で連携した取組ができた。	(対面でお会いする機会があれば、連携の糸口が掴めるかもしれない。)
	③ その他	